

地域	現況・課題	今後に向けての対応策・要望
栄町	<ul style="list-style-type: none"> ○防災倉庫をつくった。 ○子供会とその母親を対象に防災訓練を行った。力の無い小学生も消火器訓練をした。父兄も協力して担架搬送や炊き出しをした。町内のほぼ全員の子供が参加でき、いい訓練になった。 	
加屋町	<ul style="list-style-type: none"> ○清水町の社協と三島市の社協が協力して訓練を立ち上げるようになった。 ○三島市は川の水量が豊富。昔は川から水を引いて消火をした。今は消防に頼っているが、災害時にあてにすることはできない。川で可搬ポンプを自由に使える場所をつくることを考えるべき。住民でできることを考えた方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○西小学校区では火災対策が必要。消火器の扱い方を多くの人に覚えてもらいたい。訓練のときに率先して練習する姿勢を持ってほしい。 ○加屋町でも、状況によっては白道保育園を避難場所とするかもしれない。その場合、西小との連絡係をつくりたい。 ○町内としての災害本部を立ち上げ、犯罪に備えた防犯パトロールを行いたい。
広小路町	<ul style="list-style-type: none"> ○内容は例年と変わらない。西小まで避難し、消火訓練、スモークハウス体験、AED訓練、救護訓練を行う。 ○炊き出しは自治体それぞれで行う。給食室を利用することは考えていない。 ○12年前から防災住民台帳をつくっている。 ○ひとり暮らしの高齢者のリストをつくり、防災訓練時には組長がリストをもとに安否確認を行う。 ○独自につくったリストと市からのリストが一致しない。それぞれ家庭の事情があるので、自治会が調査することで実態を把握できる。 ○現在支援ボランティアを募集している。声をかけるだけでもいいので手を挙げてほしいと呼びかけている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○広小路町の避難場所は西小でいいのかどうか考えている。シンコウパークは耐震性に問題がないので、場合によっては避難所としたい。西小に避難しないと何か差し支えがあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○炊き出しのメニューを変えることで住民に興味を持ってもらい、参加者を増やしたいと考えている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●災害発生当初は、市の指定避難場所にしか物資が届かないと思われる。西小から物資を運ぶことには差し支えが無い。(危機管理課) ●西小に来ないと安否確認ができない。情報を西小に伝達できれば、別の場所に避難しても問題ない。(危機管理課)

西若町	○火災が一番心配される。初期消火としては消火器も有効だが、火災が同時多発的に起こった場合は防ぐことができない。	○同時多発火災も想定して、各自自治体で消火の体制を考えた方がよい。
西本町	○ひとり暮らしの高齢者を調査したところ、2680人だった。 ○要援護者には母子家庭や高齢者の夫婦も含まれるので、もっと数が多くなる。	○状況が変わってひとり暮らしになる高齢者もいるので、毎年の調査を継続していくべきである。
緑町	○市からの要援護者リストはあまり参考にならない。リストの中には助けを必要としない人もいる。 ○今年9月、緑町独自で全世帯対象の基礎データ調査を行った。要援護者として手を上げたのは18名、その中から個人情報を開示してもよいという8名を訪問し、基準に適した5名を要援護者として設定した。 ○支援者として手を挙げたのは11名であり、そのうち一般人(自営業、会社員、教員、退職者)7名、学生(高校生、中学生)4名であった。 ○集まりに来なかった組長もいたので、実際には要援護者をもっと多くなる。	●素晴らしい取り組み。各町内会や自主防災会で取り組んでもらえると、要援護者も安心である。町内の意識も高まる。整ったら、危機管理課に教えていただきたい。(市長)
	○要援護者1人につき、支援者を2～3名はつきたい。支援者が20～30名ほど必要となる。	○2回目の募集をかける。来年3月頃までには体制を整えたい。
	○消防署で上級救命士の講習を受けた。救護できる人がたくさんいれば、非常時に自分たちで手当てをすることができる。	○講習の参加者を増やしたい。
寿町	○高齢者のひとり暮らし、高齢者世帯が多い。	
	○ひとり暮らしの高齢者に笛ではなく防犯ブザーを配った。	○音を出しやすいので普及させてほしい。
清住町	○担当地域の要援護者リストには16名しか載っていないが、実際に災害が起こった場合、リストに載っている人だけを助けるというわけにはいかない。	○個人情報の問題もあるが、全員のリストがほしい。
	○要援護者には、赤ちゃんのいる家庭や外国人も含まれると思う。	○要援護者のくくりを大きくした情報提供をお願いしたい。
	○富士常葉大学の協力の下、月に1度、述べ3回の耐震住宅のワークショップを開催した。それぞれ34名、22名、25名が参加した。 ○3つのチームに分かれ、フリートークを行ったが、やや活発性に欠けた。 ○阪神淡路大震災で、死者の8割が家屋の倒壊で亡くなったことをふまえ、自分の家は自分で守る姿勢が必要である。	○参加者が少ないため、情報の共有や意識啓発化に取り組んでいかななくてはならない。 ●西小学校区には7、8000人の住民がおり、全員が体育館に避難することはできない。自分の家で暮らすことができるよう、耐震補強を行ってほしい。市の補助金も活用してほしい。(市長)

	○清住町民の防災意識向上につながると考えている。	●シェルターはもっと安く用意できるので、検討してほしい。(市長)
西小学校	○耐震工事も終わっており、広い運動場もある。 ○震災発生時、児童は家に帰らせず、まずは運動場に避難させる。その後保護者に引き渡す。子供の命を最優先に考えている。 ○小学校の方針は十分伝わっている。(子ども会)	●3.11の震災のときに、フェアキャストが全く通じなかったのが市内の学校が混乱した。その対応について、教育委員会が検討している。(市長) ●北小が防災の研究指定校となり、今年7月にPTA主催の防災訓練を行った。参考にしてほしい。(市長)
	○栄町の訓練で、子供たちが消火器を楽しく体験していた。(幼稚園PTA)	○子供でも即戦力となるので、学校でも体験する機会を設けてほしい。(幼稚園PTA)
南中学校	○昨年、中学生の参加が少ないとの指摘を受けた。 ○学校としては地域行事に参加するよう指導しているが、秋の新人戦が多いため参加人数が増えづらい。 ○対策として参加賞を設けた。 ○昨年まで、学校の方には防災訓練の情報は入ってこなかった。今年は、教育委員会が各自治体から防災訓練の情報を集め、事前に学校から生徒に知らせるようにしたので参加者が増えた。 ○それぞれの地域の運動会で中学生が活躍していた。	
全体	◇周辺の状況、避難場所の確認	
	○火災が起きて指定避難場所に行くことができない場合、別の避難場所を決める基準はあるのか。(清住町)	●基準はないが、広域避難地として楽寿園が指定されているので活用してほしい。(危機管理課)
	◇各団体の組織の整備	
	○西小地区では自主防災会の会合があまり開かれていない。(防災指導委員会)	○市で開催する会合に参加するだけでなく、各町内で自主的に開催してほしい。(防災指導委員会)
	○避難所である西小校区の地域全体で話し合う機会が少なすぎる。(寿町)	
	○避難所運営における役割分担や、どこまでを市が、どこまでを自治体が担当するのかを把握しておかなければならない。(寿町)	○学校と市、各自治体が避難所運営会議を年に1度開いている。避難所は各自主防災会が中心に運営することになる。市と各避難所の連絡役は、市の現地配備員が行う。(危機管理課)
		●阪神淡路大震災が発生したとき、

		自分の命を助けてくれた人として『近所の方』を挙げた人が8割いた。近所同士のつながりが大切である。自主的にこのような会をもっと開いて、問題点について話し合ってもらいたい。(環境市民部)
	◇訓練等の実施	
	○運動会は例年通り、参加者が多かった。(スポーツ推進委員会)	●生き抜くために防災訓練をやっている、ということを住民の方に伝えてほしい。(環境市民部)
	◇物資、資材の備蓄・点検	
		●うみやあ水を2万本試作した。命のパスポートも利用してほしい。(市長) ●3日分の水の備蓄をしてほしい。(市長)
	○長泉町では以前から学校に水のタンク、区の方には災害時に飲料水として利用できる防火水槽が設置してある。三島市でも検討してほしい。	●三島市でも144箇所に防火水槽が設置されており、2年に1度水を入れ替えている。避難先となる学校の防災倉庫に浄水器を用意してあるので、災害時には飲料水として利用できる。(危機管理課)
	○初期消火には消火器が有効であるが、消費期限があるので予算上増やすことができない。助成金を出してほしい。(緑町)	●粉の消火器については、訓練で使った本数分が補助対象となる。 ●水の消火器については、町内にある5分の1の本数の中から、今年度中に切れるものに限って補助が出る。 ●期限が切れるもの多くても、金額に上限があるので全て補助が出るわけではない。 ●詰め替えた消火器は耐圧検査をしなければならないので、買い替えることを勧めている。新規購入分については、訓練する・しないに関らず、3分の2まで補助対象となる。(危機管理課)
	◇連絡方法の確認	
	○市の広報をブロック別に活用したい。防災訓練や体育祭について各町内から連絡する場合、市の広報でやっていただいた方がスムーズである。(栄町)	